

2024年11月15日 第3491回例会

於： 横須賀商工会議所



<点鐘・開会> 12:30 高橋 会長

<斉 唱> 「それこそロータリー」

<長島会員ご逝去に伴う黙とう>

<ビジター紹介> *出雲ロータリークラブ 柳 楽 小百合 様

<会 長 報 告> *第1グループ会長・幹事会報告

・寄付金、マイロータリー、ポリオソサエティ登録のお願い

*ガバナー事務所より

・米山学友会主催「国際交流会・忘年会」のご案内について

12月7日(土) 8:30集合(奨学生) 13:00受付(カウンセラー)

開催場所：二宮町民センター(JR二宮駅徒歩3分)

・新会員の集い開催のご案内

2025年2月11日(火・祝) 13:30~18:30

開催場所：藤沢ミナパーク多目的ホール

・My Rotary登録率UPキャンペーン実施のご案内

<臨時年次総会> *前田会員 ガバナー・ノミネー推薦承認

<新春コンサートのご案内> 出雲南ロータリークラブ 柳楽様より

2025年1月4日(土) 14時開演 会場：横浜みなとみらいホール 小ホール

<委員長報告> *親睦委員会 岡田(圭)委員長より

・親睦旅行報告

・年忘れ家族会の景品ご提供のお願い

<幹 事 報 告> *例会終了後IM実行員会/国際奉仕委員会開催

<出 席 報 告> *出席委員会 臼井委員長より11月15日の出席報告

会 員 数	出席対象者数	出席数(ZOOM出席数)	欠 席 数	メイクアップ数	出 席 率
115名	104名	76名(3名)	28名	21名	87.39%

メイクアップ：五十嵐、伊藤、大野(忠)、岡、川名、鈴木(隆)、鈴木(康)、曾我、永井、沼田、濱田、平松、福島、松岡、松本(好)、三堀、吉田(清)、渡邊 各会員 地区大会出席
鈴木(孝)、北村 両会員 ポリオ募金活動出席 鷲尾会員 横須賀南西RC出席

<ニコニコ報告>

・柳楽小百合様(出雲南RC) 本日は例会に出席させていただきありがとうございます。演奏会のご案内をさせていただけたら嬉しいです。どうぞよろしくお願ひいたします。

・三 役 出雲南ロータリークラブ 柳楽小百合様、ようこそお越し下さいました!!本日の例会もどうぞごゆっくりお過ごし下さい。

・吉田(久)、植 田、角 井、齋藤(眞)、佐久間、加賀本 各会員

出雲南ロータリークラブ 柳楽小百合様ようこそお越し下さいました。ごゆっくり例会をお楽しみください。

・Loknath、齋藤(眞) 両会員 誕生月祝いとして

・臼 井 会員 入会月祝いとして

・三 役 情報集会へのご準備、計画、国際奉仕委員会の皆様、プロジェクトメンバーの皆様ありがとうございます。会員皆様ご検討宜しくお願いします。

・大石、児玉、竹株、木村、加藤(眞)、渡辺、八巻、荻山、植田、大野(眞)、小山(眞)、秋葉、齋藤(眞)、勝見、小平、八木、鈴木(眞)、臼井、Loknath、松本(眞)、杉浦、萩原、徳永、加賀本、鈴木(眞)、藤村、梁井、浅葉、前田、澤田、谷、笠木、田邊、根岸、岡田(眞)、長尾、森、小沢 各会員

本日の情報集会は国際奉仕活動「ネパール国における安全な飲料水の給水プロジェクトについて」です。多くの方と一緒にそして活発な活動に繋がるといいですね！

- ・大石、岡田(英)、椿、山下、田中、江口、権田、比護、高橋 各会員
先週は天候にも恵まれ、楽しい親睦旅行となりました。参加頂いた方々、ご協力頂いた方々、ありがとうございました。
- ・8番テーブル岩崎マスター、石田サブマスター 昨日、ポットベリーにて8番テーブルミーティングを開催させて頂きました。ご参加下さいましたメンバーの皆様ありがとうございました。
- ・児玉、梶木、北村、野坂、小保内 各会員 11月14日にポットベリーにて8番テーブルミーティングが行われました。美味しい食事で楽しいひとときを過ごしました。石田サブマスター有難うございました。
- ・齋藤(英) 地区米山委員長 今週日曜日予定通り米山奨学生による江ノ島クリーンキャンペーンが開催されます。現在58名の参加をいただいております。佐久間会員、北村会員、八巻会員ご参加ありがとうございます。ゴミ拾いの後はイタリアンにて乾杯しましょう。
- ・森 会員 先日、弊社の100周年記念祝賀会にご出席頂いた皆様ありがとうございました。お陰様で盛会に開催する事が出来ました。
- ・小林(一) 会員 竹株総支配人、先日は大変お世話になりました。妻も娘も感動しておりました。ありがとうございました。
- ・寺田、齋藤(英)、齋藤(英)、前田、柴田、小山(英) 各会員
今日は子どもの成長を祝う七五三ですね。ちなみにいいインコの日でもあり、イベリコ豚の日、かまぼこの日、きもの日、口腔がん検診の日、のど飴の日とのことです。
- ・物井 会員 サーファーにさよならは似合わない。ぼくらの愛した湘南の海に長島さん、天国からいい波を届けてね。

<卓 話>

第1回情報集会

国際奉仕委員会活動「ネパール国における安全な飲料水の給水プロジェクトについて」

1. 本情報集会の趣旨

高橋 会長

本日は第1回情報集会として、中期ビジョン策定委員会の意思を引き継ぎまして、次年度以降の国際奉仕テーマとして国際奉仕委員会を中心に検討されているネパール国における安全な飲料水の給水プロジェクトについて、会員の皆様にご説明する機会にしました。まずはその内容をお聞きいただき、会員の皆様から11月末までに異議申立てがなければ、地区補助金、グローバル補助金を申請して次年度以降本格的に始動していきたいと考えています。皆様よろしくお願ひしたいと思ひます。

2. 事業提案の経緯について

岡田(英) ラーニング委員長

皆様こんにちは。ラーニング委員長、国際奉仕委員会のカウンセラーを務めております岡田と申します。よろしくお願ひします。本日はネパールの事業に至った経緯についてお話をさせていただきます。

私は目標を一つにしてみんなで成長していくため、私が会長であった2020年に植田委員長と一緒に中期ビジョンを策定しました。このビジョンを立てて、皆さん一人ひとりのご意見を伺い、それを組織の中に展開して成長させることができる機会を設けることとし、その後、八巻年度、前田年度、藤村年度の3年間の中に5回、中期ビジョン情報委員会で皆様のご意見を伺う機会を得ました。

その中で、国際奉仕ではネパールでの事業の提案、福祉施設関係では例会での販売などの意見が出たので、それらを実践してきているという内容になっております。クラブ奉仕、職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕、青少年奉仕という5大奉仕の切り口の中で、一つずつ3年間にわたって皆様からご意見をいただいたという形になっております。

2013年に私はクラブの幹事だったものですから、その後4年ほどVTT委員長をさせていただき、口唇口蓋裂の事業につないでいきましたが、その中で様々な反省があり、その反省を踏まえて今年の国際奉仕委員会に展開をさせていただきました。事業が終わってもその事業がその地域で独立して継続できることが大事なポイントと考えております。

昨年の情報委員会の中でエノラ会員がネパールの話を聞いて、ロクナト会員、鈴木(孝)会員、私とともにネパールへ行き、様々な情報を得て今年の国際奉仕委員会の中で展開をさせていただいております。当地のチトワンロータリークラブは非常に活動が活発で、地域の皆さんに毎日食事を提供したりしています。私たちがチトワンロータリークラブに行った時も、お互いロータリーアンですから検討している事業についてすぐ分かり合い一緒にやろうじゃないかという話になりました。今回加藤(淳)委員長にまとめていただいております。

皆様から様々なご意見をいただきたいと思っております。我々はインターアクト、ローターアクト等、様々な関係性の深いチームを持っていますので、みんなでこの事業を進めていければいいなと思っております。事業が終わってもネパールとの関係性は一人ひとりがチャンネルを持って広がっていけば一人ひとりの活動にもつながると思っておりますのでよろしくお願いたします。

3. 事業の内容について

加藤(淳) 国際奉仕委員長

国際奉仕委員長の加藤から今回のテーマ「ネパールの安全な飲料水の給水プロジェクト」についてご説明させていただきます。

岡田(英)ラーニング委員長からお話があったように、岡田(英)ラーニング委員長や鈴木(孝)奉仕プロジェクト担当役員、国際奉仕委員会のメンバー、それに加えまして今年度の三役、藤村直前会長、山下会長エレクト、鈴木(豊)副幹事、植田RC財団副委員長、建築業界で水道工事の關係に精通した4名の会員、総勢18名のご支援により、本発表ができることとなりました。ありがとうございました。

まずは、ネパール連邦民主共和国とはどういうところかご説明させていただきます。ネパール国土の面積は14.7万km²で、北海道の約1.8倍となっております。ヒマラヤ登山の玄関口として知られている内陸国となっております。人口は3,054万人で、多種多様な民族人種が生活しているような状況となっております。

ネパールのガンダキ州のナワルプール地区内にチャムガ村という村があります。130世帯650人が住んでいて、85人の生徒さんを擁する小学校が一つあるような場所でございます。チャムガ村は改善された給水施設を一度も利用したことがなく、学校には水のないトイレがある状況ですが、この状況を政府やNGOなどの機関も認識している状況です。日々の水の供給方法はチャムガ・ムルと呼ばれている泉から通常平均45分か水汲み、20リットルの容器を持って水を汲んでいる方は、自宅に帰るのに約1時間もかかってしまっています。4月から5月の乾季には水がなくなってくるので、村人たちは違う場所にある土手から水を汲むために往復2時間以上かけて取っています。川岸を歩くのに非常に危険なところもあります。また、学校の環境は水のないトイレしかないというのが現状でございます。

今回提案したい事業の内容についてご説明します。取り組みたい地域の社会のニーズは、まさに130世帯と一つの学校のチャムガ村での安全で清潔な飲料水と衛生設備へのアクセス不足の解消です。なぜチャムガ村を選んだかという、岡田(英)ラーニング委員長からもご説明があったように、当クラブのホストスポンサーでありますチトワンロータリークラブへの訪問、現地での現状確認、エノラ会員による毎週の定例会議への参加を通じて、以下の現地の情報を収集した結果でございます。

村人たちは安全な飲料水の供給を区役所、自治体の市役所に何度も要請したそうです。その要請に応じて、過去5年間連続で取水口、集水井、貯水タンク、送排水管の建設に毎年約100万ネパールルピー(182万円)が割り当てられていましたが、抜本的なポンプシステムなどの本当に必要な設備の整備については、現地の役所に能力がなく、なかなかできていないのが現状だということが分かりました。このような地元の声について村人全員が署名と申請書と議事録をまとめて、チトワンロータリークラブに相談要請し、チトワンロータリークラブはすぐに4人の会員を連れて現地に足を運んで現況の調査を行ない、区長、市長、学校の教師との交流会などを実施したということです。住民の人たちは様々な集会で、解決策を特定するための議論を交わしており、潜在的な水源への横断歩道やパイプラインの設置、湧き水の各家庭からの供給、そういうものを取りまとめるグループディスカッションや学校の教師とのやり取りなども行っております。これ

らの問題に対する解決策は、学校の管理委員会とニーズ評価チームによって相互に合意され、住民と自治体連携のプロジェクトにも発展し、市長と学校の教師、社会指導者、区長は、本プロジェクト計画へ積極的に参画して具体的な計画を導き出しています。

上記の調査結果から、解決策としては設備の供給が必要ではないかと考えており、具体的にはソーラーハイブリッドポンプシステム、塩素注入システムによる浄水ユニット、取水/集井水及び貯水タンク構造のフェンス、学校用フィルター、手洗い場、パッドの自動販売機、パッド廃棄システムを提供することによって、2030年までに持続可能な開発目標（SDGs）のNo. 6（安全な水とトイレを世界中に）を目指して取り組みたいと思っております。

一方、ロータリーの補助金を活用する形を取っていくのには、成果の測定という部分も重要な点でございます。本事業はグローバル補助金申請のテーマの7つの重点分野の一つである「水と衛生」に基づく活動であり、目標は安全で手頃な価格の飲み水を全ての人に公平に利用できること、病気の蔓延を防いで地域社会の人たちの衛生に関する知識と行動様式、習慣の改善を目指すということであり、それらの測定方法としまして、(1)改善された水を飲んだ住民のアンケート調査を毎年100人から500人を対象として実施すること、(2)管理組織がちゃんとできて成り立っているかというチェック、(3)腸チフスだとか病原性大腸菌などの水媒介の疾患が減少したかという3点を見ていきたいと思っております。現状としましては、いろいろ自治体の結果からどれくらい罹患されているか分からない状態ですけれどもチトアンロータリークラブのご協力を得まして自治体、学校、それから保健所等、実地調査を行っています。

また、ロータリーとしての活動が終了した後も受益者の皆さんによって継続されているか、①各家庭からの月々の水道料金の徴収、②有給運営者/保守業者の雇用、③現地のフィールドテストキットを使用した定期的な水質検査と年2回のラボテスト、④登録され、機能している水利用者と衛生委員（WUSC）の維持、⑤受益者がサービスに満足しているかということも考えなければなりません。

既存の財産や技術を活用することがプロジェクトの現実可能性を広げる重要な要素となりますが、当クラブにはロクナト会員という非常に心強い仲間がいます。また、地元のチトワンロータリークラブとの連携はエノラ会員が現在担当しているということも含めましてこのプロジェクトの実現を目指してぜひ検討を進めていきたいと考えております。

この取り組みに必要な概算費用は全体で40,574ドル、日本円で約620万円です。この中で、地区の補助金と横須賀ロータリーの補助金の合計が18,930ドルということで、約290万円となっております。

本スケジュールについては皆様の方から貴重なご意見を賜り、ご理解が得られ、11月末までに会員の皆様から本事案に関して意義申し立てがなかった場合、申請書が通った後にネパールの給水プロジェクトを次年度7月から着手していきたいと思っております。ご清聴ありがとうございました。

4. グローバル補助金について

藤村 直前会長

藤村です。本事業の予算総額は40,574ドルです。これをどうやって工面するかというところですが、クラブ拠出金としてチトワンロータリークラブが3,000ドル、横須賀ロータリークラブが3,500ドルで合計して6,500ドルを支出します。それから、DDF（地区財団活動資金）、皆さんが毎年寄付していただいている年次寄付金3年分、その運用益の半額が地区のDDFになり、このDDFを利用すると使ったDDFの8割の金額が財団本部ワールドファンドから上乗せで補助されるという仕組みになっています。つまり、ネパール側からの3,500ドルと日本側からの15,430ドル、合計して18,930ドルの8割である15,144ドルが上乗せになって合計40,574ドルのお金が工面できる、そのような仕組みになっています。

横須賀ロータリークラブの拠出金、3,500ドルがどこから出てくるかということですが、皆様からお預かりしている会費をもとに一般会計予算からの支出を考えております。よって、この事業に対する皆様のご理解は絶対必要なわけです。改めてこの場をかりて皆様のご理解そしてご支援をお願い致しまして説明に代えさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

5. 本事業への思い

山下 会長エレクト

皆様こんにちは、次年度会長を拝命しています山下です。

岡田(英)年度から始まりました中期ビジョンに基づく国際奉仕プロジェクト、まさに機は熟したと思われました。横須賀ロータリークラブは国内の奉仕活動についてはいろいろやっておりますが、国際的な、世界での奉仕活動をやってみたいと思いませんか。皆様と一緒に、誰かが主体というわけではなく、皆様の英知とか技術とか職業を生かし、皆様にご協力をいただきながらやっていきたいと思っておりますのでよろしくお願いたします。

6. まとめ

岡田(英) ラーニング委員長

今日の情報集会は、このような形で皆様からいろんなご意見を伺いたいということで実施させていただきました。こういうふうにしたらどうか、僕はこういう形で参加したい等ありましたら加藤(淳)委員長に言っていただければ委員会で対応させていただきますと思います。

植田委員長と私とで中期ビジョンを立てた時も、一人ひとりの意見が委員会に集まって具体的になることが凄くいいよねという話で進めました。職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕、青少年奉仕、委員会の中で新たないろいろな活動ができればと思っておりますので、ぜひよろしくお願いたします。

以上で、情報集会の内容は終わりとさせていただきます。どうもありがとうございました。

<閉会・点鐘> 13:30 高橋 会長

週報担当 萩原 英恵